

白川沿いに佇む終の棲家

皆さんは、老後のような家で過ごしたいですか？

年を重ねるにつれ、家で過ごす時間が長くなる。

そういった人にとって“庭”は、季節や一日の時間の移り変わりによる自然や光の変化が楽しめる安らぎの空間である。

その中でも京町家は、坪庭や中庭といった家の色々な場所で緑を楽しむことができ、開放的かつ光と影を感じられる。

しかし、時代と共にリビングから行き来できる庭のみの閉ざされた住宅が大半を占めるようになってきた。

そこで今回、私は庭を貴重にこの夫婦が穏やかな日々を送ることのできる住宅を考えた。

■家族ストーリー

都会で暮らしていた60代の夫婦が、定年退職を期に今後の人生をどう過ごすかを考え、茶道が趣味の奥さんの希望もあり、古くからの歴史が残る京都で生活することを決めた。

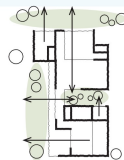
■敷地

敷地は、京都市内の白川沿いに位置する。周辺には、京町家が建ち並び古風な町並みとなっている。また、茶屋町として歴史を刻んできた趣きのある街。

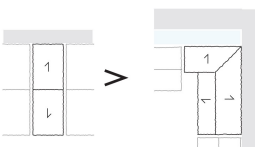
■ダイアグラム



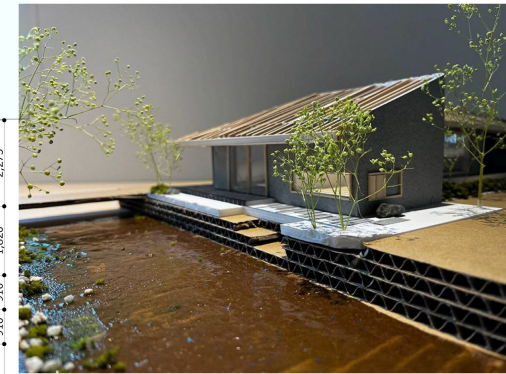
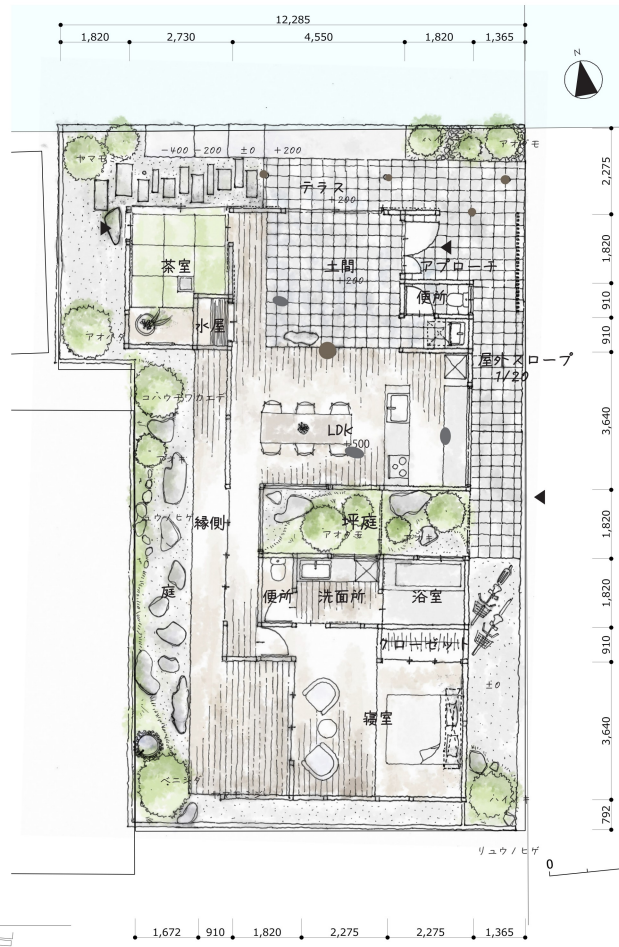
客間と居間の間に土間を配置することで開仕切り壁のない開放的な空間となり、食事会を開くなどさまざまな用途で使用することができる。



家の色々な場所でそれぞれ違った雰囲気での眺めを楽しむことができる。視線の抜けがある所とない所をつくることで光と影がより強調され心地よい空間になると考えた。



京町家で多く見受けられる“表屋造り”を軸に今回の敷地の特徴である二面道路に適した屋根形状とした。



■北山丸太

北山丸太を軒の出の垂木、柱、軒桁、欄柵に使用した。白川沿いに佇む北山丸太は趣きのあるおもてなし空間を演出。



■面積表

建築面積：101.85㎡
延床面積：88.61㎡
敷地面積：203.68㎡

